

東海第二発電所

日立市における訪問対話活動について

2025年2月18日

日本原子力発電株式会社
東海事業本部 地域共生部

1.2024年度 主な理解活動スケジュール

活動	2024年度 主な理解活動スケジュール			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①HPやSNSによる積極的な情報発信	YouTube広告やビジネスラインなどによる情報発信と各活動の告知 			
②地元ラジオ放送局を活用した情報発信	ラジオ番組から日本のエネルギー事情や原子力発電に関わる有益な情報の発信(毎月) 			
③発電所状況説明会(発電所周辺6市村)	QA整備、説明資料作成等 9/23~10/3 			
④訪問対話活動(PAZ圏)	訪問チーム編成、資料作成等 11/1~11/30 			
⑤出張イベント(15自治体共通)	6市村開催の他、特に状況説明会の開催地域でないUPZ圏内で積極的に開催 			
⑥スモールトーク(15自治体共通)	「地域住民単位」「職場・団体単位」など柔軟に対応、市民センター等への情報発信 			
⑦発電所視察(15自治体共通)	有識者等の他、応募制による発電所見学会の定期的な開催 			
⑧広報紙の積極的活用(定期的)	内容の充実を検討した上での定期的な発行 ▼5/25	▼8/24	▼10/26	▼2/22
⑨著名人による講演会等の開催	会場手配、関係者打合せ ▼1/29			
⑩広告媒体への当社関連記事の積極的な掲載	地元新聞紙への記事広告の掲載など 			

...準備 ...実施

- ◆ 訪問対話活動とは
地域の皆さまとのコミュニケーション活動の一環として、げんでんグループ社員が、定期的に地域の皆さまのお宅を訪問し直接対話することで、当社事業および原子力発電への理解促進と信頼感の醸成を図る目的に、「訪問対話活動」に取り組んでいます。
- ◆ 経緯
訪問対話活動は2020年から開始し、対象地域(対象者)を東海村自治会長、発電所周辺の東海村地域(東海村白方地区、豊岡地区)、東海村全戸、PAZ圏内(日立市の一部、ひたちなか市の一部及び那珂市の一部)全戸と拡大させていき、PAZ圏内全戸訪問は2024年度で3回目となります。
- ◆ 2024年度の説明内容について
説明資料は、今回の工程変更の理由のひとつである鋼製防護壁で確認された事象を簡潔に紹介するとともに、これまでの理解活動の中でいただいたご意見から、地域住民の皆さまの関心事を網羅できるよう、40年延長運転、原子力発電所の必要性、安全性向上対策工事の概要、原子力防災に関する事業者の取り組みなどを紹介しました。…別添 資料1(参考)ご参照願います。
- ◆ 訪問にあたって
訪問者は、基本的に従来から実施しているエリアを担当し、土地勘や訪問先の方の属性をある程度把握した状態となっています。
訪問先へは2人(または1人)で伺うこととし、配布資料を基に一方的に説明するのではなく、地域の皆さまの関心事やご意見を伺うような問いかけを交えながら、対話を実施しました。
- ◆ 訪問対話活動結果の扱いについて
本資料に記した「訪問先から寄せられたご意見」は、PAZ圏内という一部のエリアにおいて回収したものであり、地域の皆さまの総意ではないため、取扱いにあたってはご留意いただきたい。

3. 2024年度PAZ圏内訪問対話活動実施結果

(1)実施期間及び活動時間

①実施期間 2024年11月1日(金)～11月30日(土) *訪問実施28日

②活動時間 平日 9:00～16:30

休祝日 9:30～16:30

(昼食時間帯12:00～13:00は除く)

(2)実施対象 27,173戸

<内訳>

・東海村	15,451戸
・日立市	11,075戸
・ひたちなか市	381戸
・那珂市	266戸

(3)実施体制 延べ動員数868名(334組)

<内訳>

・発電所員	552名
・本店社員	52名
・研修センター所員	29名
・地域共生部員	79名
・原電エンジニアリング(株)社員	156名



4. 2024年度PAZ圏内訪問対話活動実施結果(訪問対話活動全体)



訪問対話活動の実施結果の概要

※対面数は、面会し説明(会話)が出来た数

訪問期間	訪問戸数	対面数※	対面率
2024/11/1(金)~30(土)	27,173戸	7,117戸	26%

<市村別内訳>

- ・東海村 15,451戸のうち対面3,771戸[対面率26%]
- ・日立市 11,075戸のうち対面3,043戸[対面率27%]
- ・ひたちなか市 381戸のうち対面 170戸[対面率45%]
- ・那珂市 266戸のうち対面 133戸[対面率50%]

<平日・休祝日内訳>

- ・平日訪問 25,886戸のうち対面6,560戸[対面率25%]
- ・休祝日訪問 1,287戸のうち対面 557戸[対面率43%]

➤ 休祝日及び平日の対面率は、
 昨年度とほぼ同等(昨年比:平日△2ポイント、休祝日+1ポイント)
 であった。

➤ 今年度は休祝日の訪問戸数が減った
 (前年度5,126戸⇒今年度1,287戸)ことにより、
 全体の対面率が低下した。

【参考】過去の訪問対話活動の実績

訪問期間	訪問戸数	対面数※	対面率
2023/11/1 ~ 30	26,988戸	7,995戸	30%
〈市町村別内訳〉 東海村	15,288戸	4,098戸	27%
日立市	10,989戸	3,551戸	32%
ひたちなか市	371戸	190戸	51%
那珂市	340戸	156戸	46%
〈平日・休祝日内訳〉 平日訪問	21,862戸	5,827戸	27%
休祝日訪問	5,126戸	2,168戸	42%
2022/11/1 ~ 30	26,637戸	8,122戸	30%
〈市町村別内訳〉 東海村	15,153戸	4,286戸	28%
日立市	10,811戸	3,502戸	32%
ひたちなか市	334戸	172戸	51%
那珂市	339戸	162戸	48%
〈市町村別内訳〉 平日訪問	23,986戸	7,011戸	29%
休祝日訪問	2,651戸	1,111戸	42%

5. 日立市における訪問対話活動の実施結果の推移

訪問期間	訪問戸数	対面数※	対面率
2024/11/1(金)~30(土)	11,075戸	3,043戸	27%
2023/11/1(水)~30(木)	10,989戸	3,551戸	32%
2022/11/1(火)~30(水)	10,811戸	3,043戸	32%

※対面数は、面会し説明(会話)が出来た数

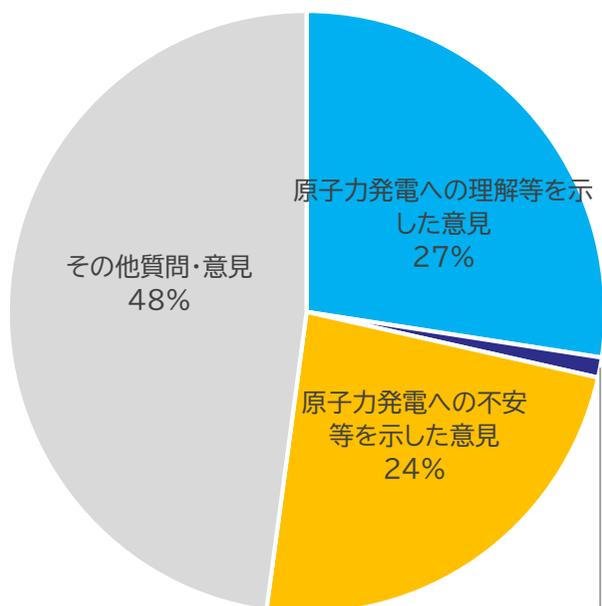
地域名	2024年度			2023年度			2022年度		
	訪問戸数	対面数※	対面率	訪問戸数	対面数※	対面率	訪問戸数	対面数※	対面率
神田	145	69	48%	143	91	64%	150	94	63%
下土木内	86	48	56%	87	55	63%	96	52	54%
茂宮	107	63	59%	110	65	59%	103	55	63%
大和田	303	162	53%	313	168	54%	301	162	54%
留	274	111	41%	286	126	44%	261	141	54%
久慈・みなと	3,472	1,051	30%	3,411	1,372	40%	3,353	1,205	36%
森山	270	76	28%	259	78	30%	265	87	33%
石名坂	1,193	328	27%	1,274	335	26%	1,226	421	34%
大みか・水木	3,237	677	21%	3,157	799	25%	3,321	815	25%
南高野	1,988	458	23%	1,949	462	24%	1,825	460	25%

6. 日立市の訪問先から寄せられたご意見の推移

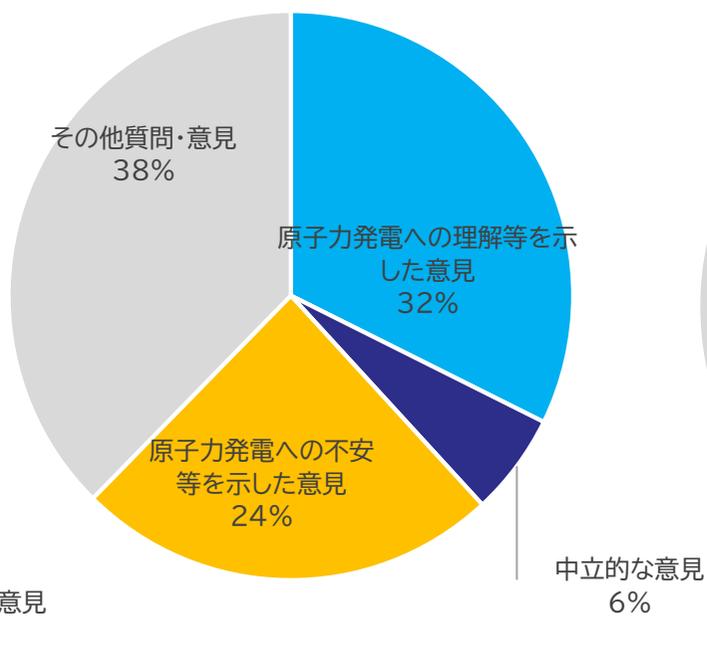
主なご意見の分類[当社訪問者の印象]

所員が訪問した際に対話等で確認したご意見等を意見等抽出フローに従い分類

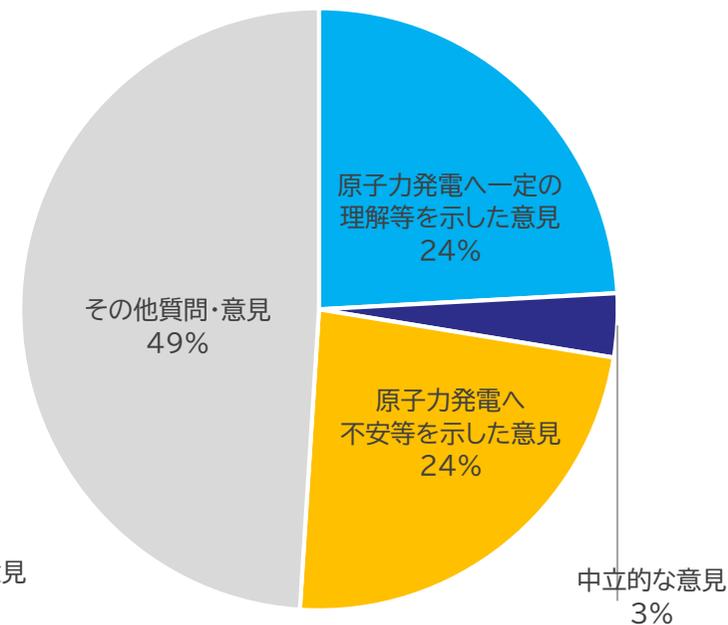
2024年度実績(372件)



2023年度実績(396件)



2022年度実績(439件)



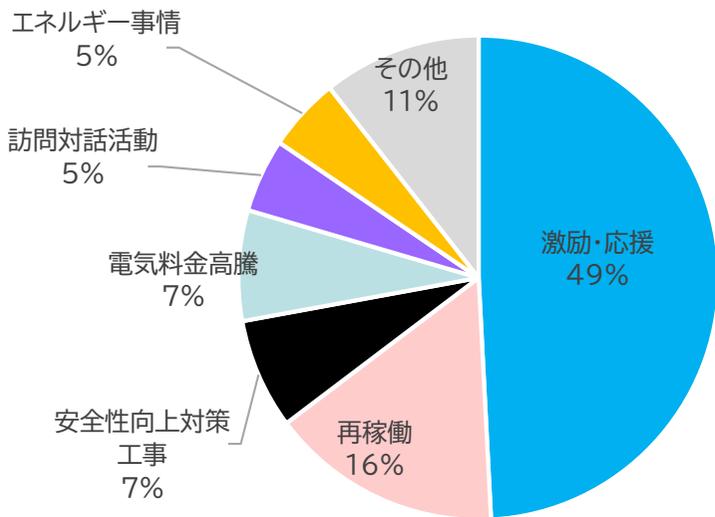
7. 日立市の訪問先から寄せられたご意見の推移

原子力発電への理解等を示した意見の分類[当社訪問者の印象]

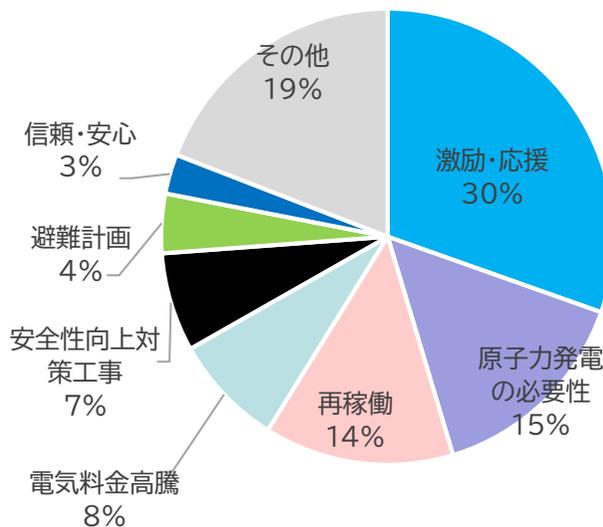
寄せられた意見からキーワードとして以下の項目毎に分類

「激励・応援」、「原子力発電の必要性」、「信頼・安心」、「避難計画」、「再稼働」、「安全性向上対策工事」、「40年超運転」、「電気料金高騰」、「ウクライナ情勢」、「エネルギー事情」、「福島事故」、「放射性廃棄物」、「テロ対策・有事」、「理解促進・情報発信」、「訪問対話活動」、「地震・津波」、「廃炉」、「自治体」、「再生可能エネルギー」、「原子力の恩恵」、「防潮堤(鋼製防護壁)」、「火災」(下線は2023年度から新たに分類を追加)

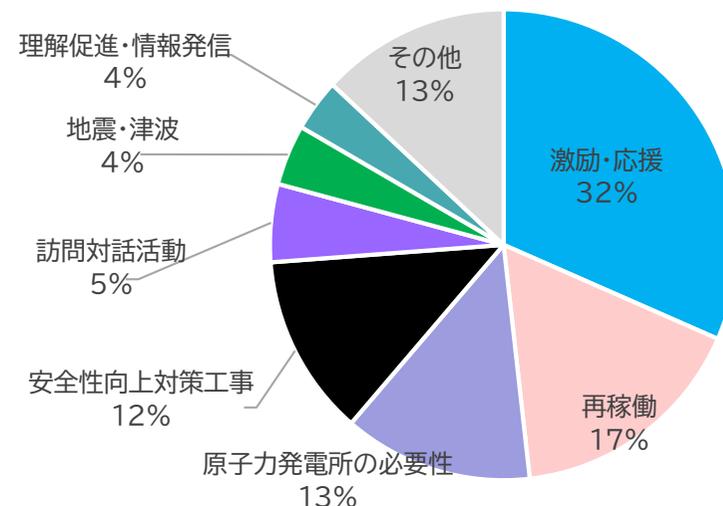
2024年度実績(102件)



2023年度実績(128件)



2022年度実績(106件)



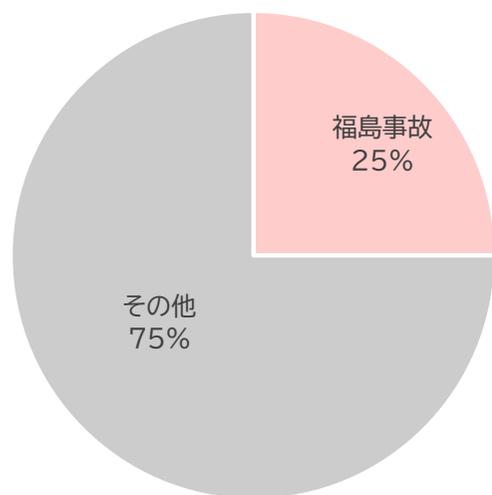
8. 日立市の訪問先から寄せられたご意見の推移

原子力発電への中立を示した意見の分類[当社訪問者の印象]

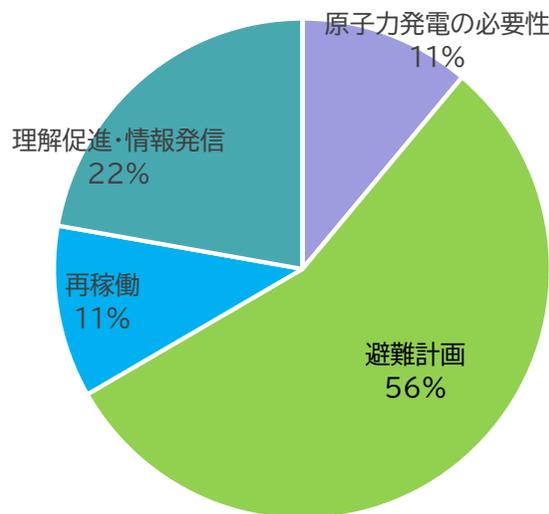
寄せられた意見からキーワードとして以下の項目毎に分類

「激励・応援」、「原子力発電の必要性」、「信頼・安心」、「避難計画」、「再稼働」、「安全性向上対策工事」、「40年超運転」、「電気料金高騰」、「ウクライナ情勢」、「エネルギー事情」、「福島事故」、「放射性廃棄物」、「テロ対策・有事」、「理解促進・情報発信」、「訪問対話活動」、「地震・津波」、「廃炉」、「自治体」、「再生可能エネルギー」、「原子力の恩恵」、「防潮堤(鋼製防護壁)」、「火災」(下線は2023年度から新たに分類を追加)

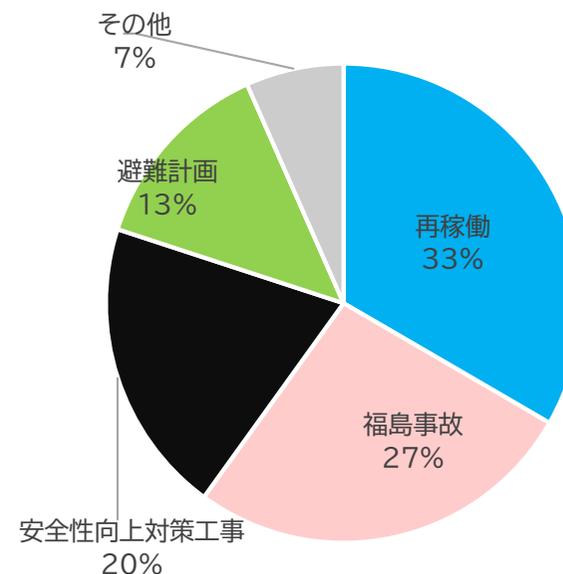
2024年度実績(4件)



2023年度実績(23件)



2022年度実績(15件)

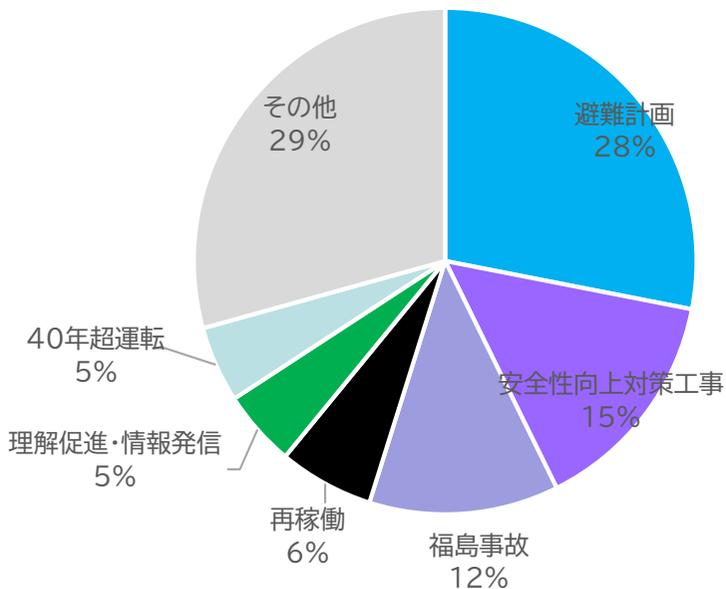


原子力発電への不安等を示した意見の分類[当社訪問者の印象]

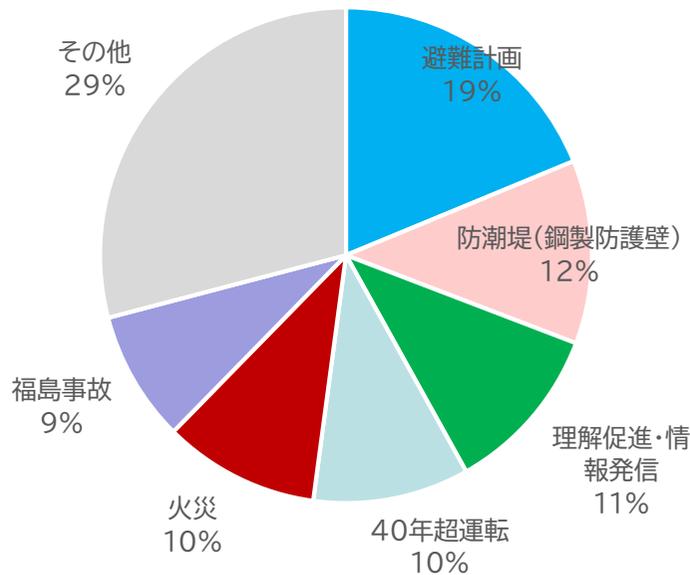
寄せられた意見からキーワードとして以下の項目毎に分類

「激励・応援」、「原子力発電の必要性」、「信頼・安心」、「避難計画」、「再稼働」、「安全性向上対策工事」、「40年超運転」、「電気料金高騰」、「ウクライナ情勢」、「エネルギー事情」、「福島事故」、「放射性廃棄物」、「テロ対策・有事」、「理解促進・情報発信」、「訪問対話活動」、「地震・津波」、「廃炉」、「自治体」、「再生可能エネルギー」、「原子力の恩恵」、「防潮堤(鋼製防護壁)」、「火災」(下線は2023年度から新たに分類を追加)

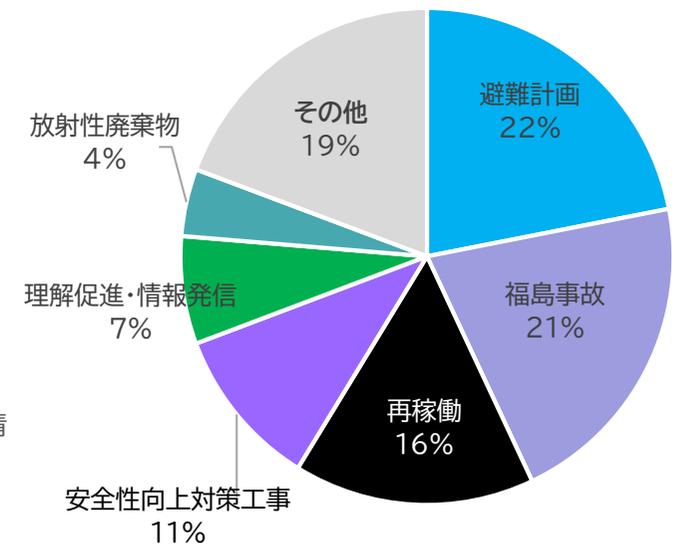
2024年度実績(88件)



2023年度実績(96件)



2022年度実績(103件)

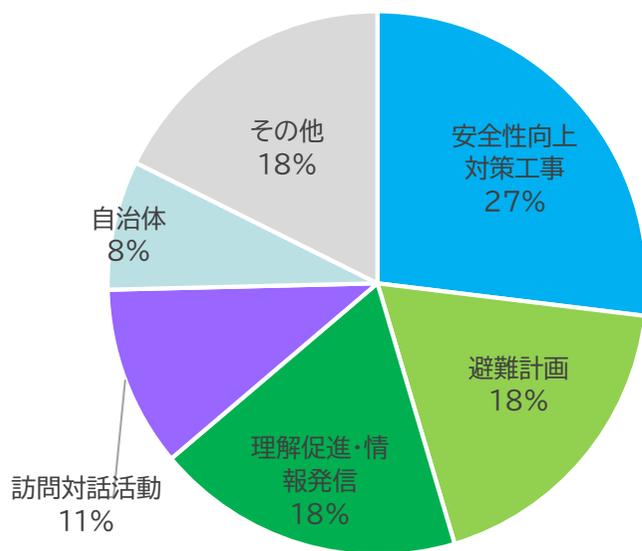


その他ご意見や質問の分類

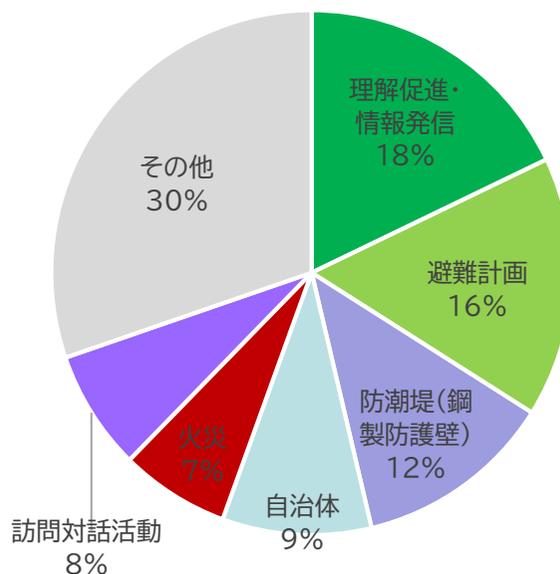
寄せられた意見からキーワードとして以下の項目毎に分類

「激励・応援」、「原子力発電の必要性」、「信頼・安心」、「避難計画」、「再稼働」、「安全性向上対策工事」、「40年超運転」、「電気料金高騰」、「ウクライナ情勢」、「エネルギー事情」、「福島事故」、「放射性廃棄物」、「テロ対策・有事」、「理解促進・情報発信」、「訪問対話活動」、「地震・津波」、「廃炉」、「自治体」、「再生可能エネルギー」、「原子力の恩恵」、「防潮堤(鋼製防護壁)」、「火災」(下線は2023年度から新たに分類を追加)

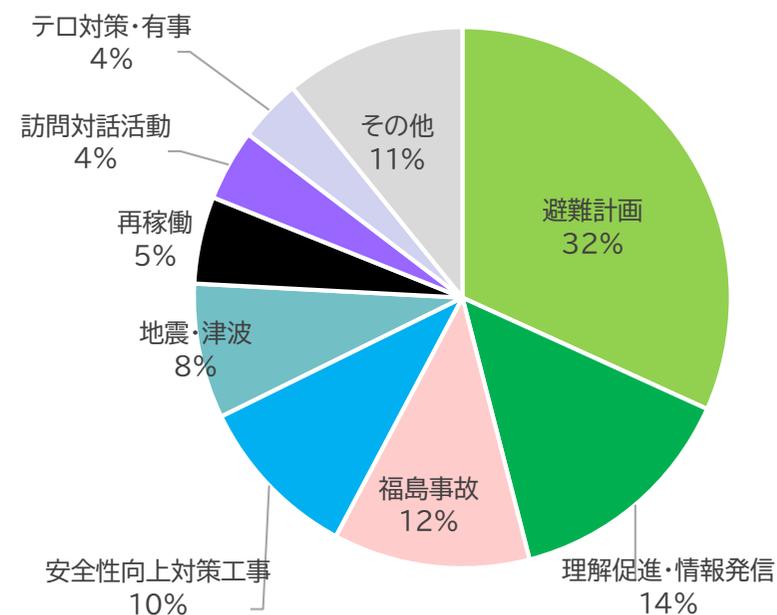
2024年度実績(178件)



2023年度実績(149件)

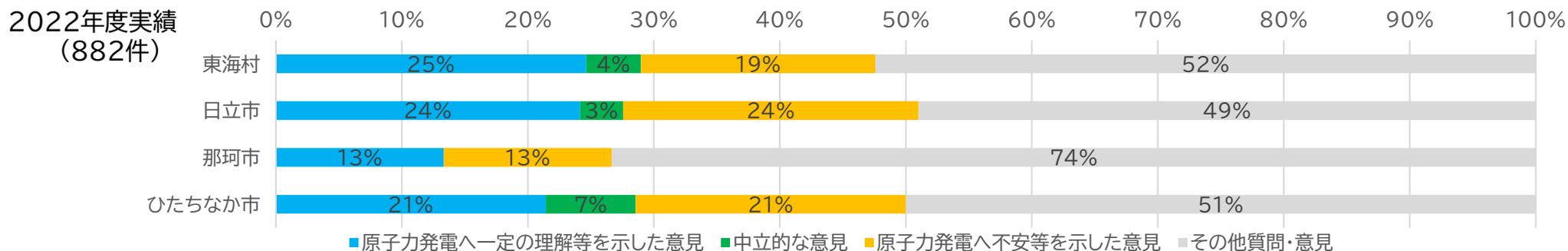
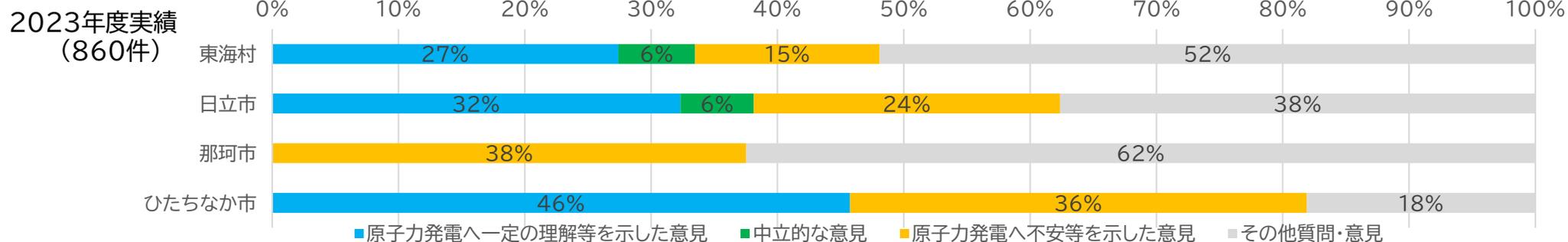
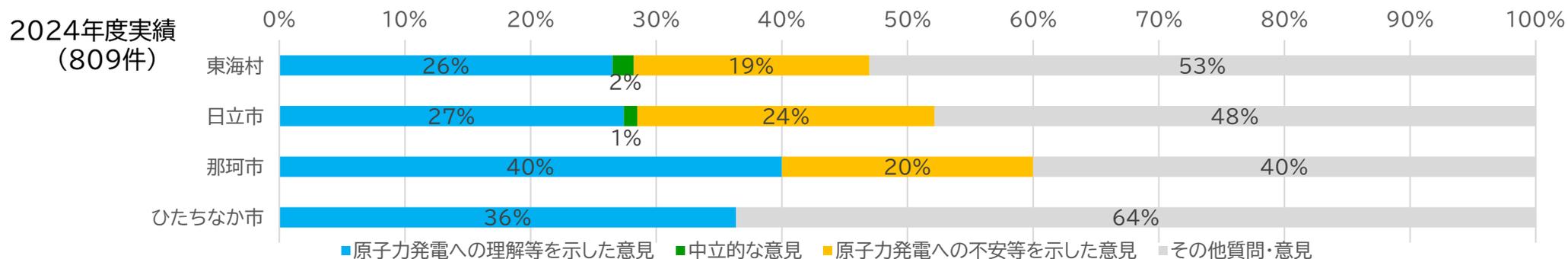


2022年度実績(215件)



11.訪問先から寄せられたご意見(訪問対話活動全体)

主なご意見の傾向の市町村別内訳比率[当社訪問者の印象]



12. 地域の皆さまからの主なご意見(訪問対話活動全体)

- 対面で意見を言えるような活動をしてくれるのは嬉しい。毎年来ているのも覚えている。頑張ってください。
- 原子力発電は必要な電源である。はやく再稼働して欲しいが、安全に運転して欲しい。
- フィルタバント装置のような設備があるなら安心。
- これから電気は更に必要となる。電気代が高騰しているので、早く再稼働して欲しい。
- 原電のことは信頼しているので頑張ってください。
- 原電を信用している。一生懸命仕事をしているのはわかっているので、頑張ってください。
- 原子力は必要であり再稼働を進める事も理解しているが、しっかりと住民に対して説明をして欲しい。
- 原子力発電の必要性和事故が起こった場合不安両方で複雑な心境。
- 賛成反対は言わないが、福島第一原子力発電所から燃料デブリが茨城にきて気になっている。
- 賛成でも反対でも無いが、鋼製防護壁については、原因解明と対策はしっかりやってもらわないと困る。
- 原子力が良いのか悪いのか私たち住民は判断できない。
- 自分の年齢やエネルギー事情などの世界情勢を鑑み、静観している。
- 原子力に対して何とも思っていない。
- 事故が起きたら今の避難計画では無理。再稼働しないでほしい。
- 時が経てば現在の安全に関する評価条件が変わるかもしれない。安全に絶対はないと思うので、再稼働反対。
- 昔、原子力発電所で働いていたが、福島の事故以降不安があり、原子力はやめた方がよい。
- 東海第二発電所は古い発電所であり、運転期間の延長はありえない。
- 説明会等に参加しているが、原電社員は都合の良い説明ばかり、もっと地元の人を考えた説明をして欲しい。
- 高レベル廃棄物処理先が決まっていないのに運転するのはおかしい。100%安全でないとならば再稼働は認められない。

①HPやSNSによる積極的な情報発信

- ・YouTube内動画広告による情報拡散力の向上
- ・お住まいのエリア、年齢などの属性を絞った広告配信による情報浸透力の向上
- ・公式LINE(1月10日時点で6,091人登録)を介したタイムリーなイベント申込案内の徹底



げんでん公式LINE

②地元ラジオ放送局を活用した情報発信

- ・当社社員が出演し、日本のエネルギー事情や東海第二発電所の状況について放送
- ・茨城弁を駆使する地元女性パーソナリティーとの親近感のある番組構成



ラジオ放送局FMいづるんにて収録

③発電所状況説明会

- ・エネルギー事情の説明の他、対話形式による地域住民との意見交換



社員からの概要説明



少人数制のグループに分けた後、ひざ詰めで地域の方と意見交換

④訪問対話活動

- ・東海村を含む近隣市約27,000世帯(PAZ圏内)について、延べ動員数約900名にて対応
- ・東海事業本部及び本店社員に加え、原電エンジニアリング株式会社社員が参加

⑤出張イベント

- ・地域イベントにブースを出展し、日本のエネルギー事情、東海第二発電所の安全性向上対策工事の状況等について、クイズやVRゴーグルを用いて紹介
- ・子供たち向けに地球温暖化や原子力発電所について紹介するとともに、VRを使った発電所見学ツアーやスライム等の科学実験を実施



エコフェスひたち
(日立市)



日立港まつり
(日立市)



ひたち秋祭り
(日立市)



科学の祭典
(日立市)



出前授業
(ひたちなか市)



⑥スモールトーク

- ・エネルギー価格高騰や環境問題について、地域の皆さまとしっかりと対話するスモールトークの場を設け、原子力やエネルギーに関心を持っていただくきっかけを提供



参加者と食事をしながらのテーブルトーク

⑦発電所視察

- ・発電所周辺30キロ圏(小美玉市を含めた15自治体)にお住いの皆さまを対象とした応募制による一般見学会の開催
- ・2022年12月から2回/月の頻度で実施しこれまで411名の方が参加



原子力館屋上からの案内



原子力館長からの説明

⑧ 広報紙の積極的活用

- ・広報誌「テラchannel」を定期発行(年4回)
- ・東海第二発電所の安全性向上対策工事の最新状況に加え、茨城県内の特産品等を掲載
- ・約35.5万部を小美玉市を含めた15市町村へ新聞折込みまたはポスティングによる配布



1号 2号 3号 4号 5号 6号 7号 8号 9号 10号 11号 12号 13号 14号 15号 16号 17号

⑨ 著名人による講演会等の開催

- ・著名人による集客を活かした、講演会またはセミナーを開催し、当社の状況やエネルギー事情等について説明



成田悠輔氏と一緒に考えるエネルギー講演会



図鑑制作スペシャリスト丸山貴史氏によるセミナー



⑩ 広告媒体への当社関連記事の積極的な掲載

- ・茨城新聞や読売新聞への記事広告の掲載



様々な媒体を通じた情報発信によって、当社への認知度・関心度向上に努めるとともに、各種対話をとおして、地域の皆さまの心配事などを我々が理解する活動を継続し、地域の信頼感の醸成を図ってまいります。